

月十八日享年七十五で歿した。

ナカシンボ 中新保 石川郡中村郷に關する部落。

ナカスカ 中須加 河北郡井上庄に關する部落。

ナカセ 中瀬 河北郡若松の内の小字。

ナガセカス 長瀬主計 初め五郎右衛門又は善左衛門と稱した。父小右衛門と共に堀左衛門督忠俊に仕へたが、主計は父に先立つこと一年、慶長十八年前田利常の小々將となつて千五百石を受け、元和元年父の遺知の中二千石を併せて三千五百石となり、大坂再役に首級三を獲、足輕頭・御馬廻頭に任じ、慶安二年歿した。

ナガセコエモン 長瀬小右衛門 生國は遠江。初め明智光秀に臣事し、後堀左衛門督忠俊に仕へて物頭を勤めたが、慶長十九年前田利常に徴されて二千五百石を受け、大坂冬役に従ひ、夏役には五月七日黒門の内櫻の馬場が一番に乗り、屏際で鐵炮に中つて即死した。小右衛門の後嫡家は六代次郎兵衛忠郷に至つて絶えたが、支族は歴世藩に仕へた。

ナガセシクロウ 長瀬新九郎 父は堀丹後守直寄の家人で、堀彦太夫と稱した。新九郎は長瀬小右衛門の外孫であつたから、母の苗字を名乗り、後小右衛門の配分知五百石を受けて前田利常に仕へ、更に百五十石を加へ、寛文七年御先簡頭兼御小々將裁許となり、天和二年致仕して半齋と號した。子孫藩に世襲する。

ナガセシンバチロウ 長瀬新八郎 祿四百石。定番御馬廻組に關し、元祿九年御武具奉行に任ぜられたが、小探番左衛門と口論して、

十六年二月六日知行を召上げられ、廿一日御領國三都御構追放に處せられた。

ナガセタタサト 長瀬忠郷 通稱次郎兵衛。五郎右衛門忠尚の子。祿二百石。大小將・同横目より御先簡頭・大組頭に任じたが、寛政二年七月十七日役儀を免じ、百石減知の上通塞を命ぜられ、十二月十一日御咎中六十一歳で歿。遺誓の認め方が良くなかつたので跡目断絶した。

ナガセタタヨシ 長瀬忠良 通稱善次郎・善左衛門。天明八年幼少で父多磨の遺知六百五十石の三の一を襲ぎ、寛政三年御馬廻に班し、五年大小將、享和元年表小將、文化二年金谷表小將横目より次第に昇進し、定番頭に至り、文政十一年百五十石を加へ、天保七年役儀を指除かれた。

ナガセタンベエ 長瀬満兵衛 源五左衛門の養子。祿六百五十石で加州郡奉行を勤め、同僚永原権丞と共に加賀國由来帳を著した。寶永五年歿。

ナカセンドウ 中山道 藩侯が参勤の際、上街道から中山道に入つて江戸に出たことはないが、之と反對に就封の際中山道から北陸に入つたことは往々にあつた。前田綱紀は享保二年九月廿七日江戸を發し、第十六日の十月十三日金澤に入り、前田齊泰は嘉永元年三月十八日江戸を發し、第十八日の四月六日に金澤に入つたのはその著しい例である。享保五年四月二日綱紀が江戸を發した時にも中山道を経たが、その時は京都に立寄つて歸城したのであつた。又一般藩士に中山道通過を命じたのは、弘化四年三月饑饉の爲に信濃路の通行が壅塞せられた時で、十三泊の行程と定

められた。各驛の距離は略次の如く、武鑑には百六十里餘と公稱せられてゐた。

金澤野町一里塚 一里 野々市 一里五町 松任 一里六町 荒屋柏野 二十五町 水島 二十七町 粟生 二十四町 寺井 一里三十二町 小松 一里三十一町 月津 三十五町 動橋 一里二十四町 大聖寺 一里九町 橋 一里半 越前細呂木 一里半 津 二里半 長崎 一里半 森田 一里 福井 一里 浅水 一里 水落 一里 鯖江 一里 府中 二里 臨本 一里 鯖波 二里 今庄 二里半 板取 二里 近江中河内 二里 椿坂 一里 柳瀬 一里半 木ノ本 二里半 郡上 木ノ本 二里半 長濱 二里半 春照 一里八町 里半 米原 一里六町 番 藤川 一里十三町 場 三十町 醒井 一里半 柏原 一里 美濃今須 一里 美濃關原 一里 垂井 一里十二町 赤坂 二里八町 美江寺 一里六町 河波 一里半 加納 四里八町 鷺沼 二里 太田 二里 伏見 一里 御嶽 三里 大湫 三里半 大井 二里二十四町 中津川 一里 落合 一里 信濃馬籠 二里 妻籠 一里半 三留 野 二里半 野尻 一里二十四町 須原 三里九町 上松 二里半 福島 二里 宮越 二里 葦原 一里半 奈良井 一里半 賢川 二里 本山 三十町 洗馬 二里 塩尻 三里 下諏訪 五里 和田 二里 長窪 一里半 芦田 一里半 望月 一里 八幡 一里 塩名 一里半 岩村田 一里 小田井 一里半 追分 一里十二町 齊掛 一里六町 輕井澤 二里三十町 上野坂本 二里十二町 松井田 二里八町 安中 三十町 板鼻 一里三十町 高崎 一里十二町 倉賀野 一里半 落合新町 二里 武藏本庄 二里 二十五町 深谷 二里三十町 熊谷 四里八町 鴻巣 一里三十町 桶川 一里 上尾 二里 大宮 一里十町 浦和 一里十四町 藤 二里十町 板橋 二里 江戸

日本橋

ナガソガハ 長會川 源を鹿島郡芦川原山分に發して西北に向かひ、徳前より西に折れ、良川より西南に轉じ、金丸出に於いて久江原山分より出る久江川を併せ、凸知川に入る。流程凡そ一四軒。その徳前から下流は凸知海地溝帯の低所を縦断するので、霖雨に際する時は土砂を流出すること多いが故に、一に濁川と稱し、久江川落合附近からを長會川とも能登川とも稱する。

ナカソヒコジンジャ 奈鹿會社神社 鹿島郡上會根に鎮座する。式内等舊社記に「奈鹿會社神社。長澤保上會社村鎮座。長澤保名或作「長會」。有「河稱「長會川。」とあり、文政社號帳には「石座社。會根村鎮座産神。祭神味鋸高根彦命。」と載せる。

ナカソヒメジンジャ 奈鹿會比咩神社 鹿島郡下會根に鎮座する。式内等舊社記に「奈鹿會比咩神社。長澤保内下會社村鎮座。舊傳云。一宮氣多大明神娶「后姫神」。生「二子」流「捨長會河」。妹「津姫」拾上。彦姫兩神是也。」と見え、文政社號帳には祭神を下照比咩命とする。

ナカタ 中田 江沼郡山中谷に關する部落。

ナカタ 中田 鳳至郡阿岸郷に關する部落。

ナカタ 中田 珠洲郡若山庄に關する部落。

元祿十四年の郷村名義抄に「此所に中田と申家名の百姓罷在候。依之村名に稻成候由申傳候。」とある。

ナガタ 長田 石川郡戸板郷に關する部落。

ナガタ 長田 羽咋郡熊野方郷に關する部落。

ナカダイ 中代 江沼郡四十九院谷に關する